



2023年2月期 通期

決算説明資料

---

株式会社エルテス（証券コード 3967）

2023年4月14日

# デジタルリスクと戦い続ける

---

インターネットをはじめとしたデジタル化は私たちの社会に大きな恩恵をもたらすと同時にこれまでにはなかった新たなリスク＝デジタルリスクも生み出しました。

企業や個人を脅かすデジタルリスクは日々高度化し続けており、従来型のリスクマネジメントでは決して追いつくことができません。常に先を見据え、最先端のテクノロジーを駆使したイノベーションを生み出し続けることこそデジタルリスクと戦い続けるための唯一の手段です。

私たちエルテスは、デジタルリスクの無い豊かな社会に向けて新しいテクノロジーとともに常に進化し、デジタル社会にとってなくてはならない存在を目指します。



1

全体サマリー

2

2024年2月期通期業績見通し

3

事業概要

4

事業別状況（セグメント別）

5

APPENDIX



# 1

## 全体サマリー

～新領域での芽吹きと既存領域での実り～



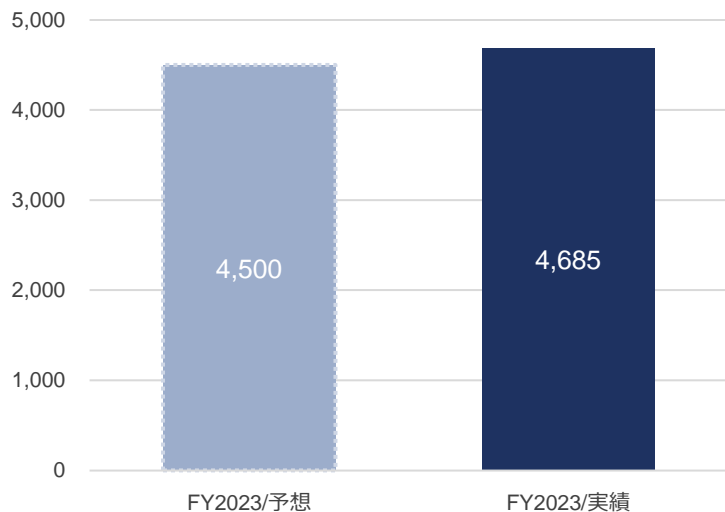
売上高、EBITDA、営業利益  
業績予想を上回って着地

第4四半期  
DX推進事業が黒字化

エルテス単体  
2月売上高が月次過去最高

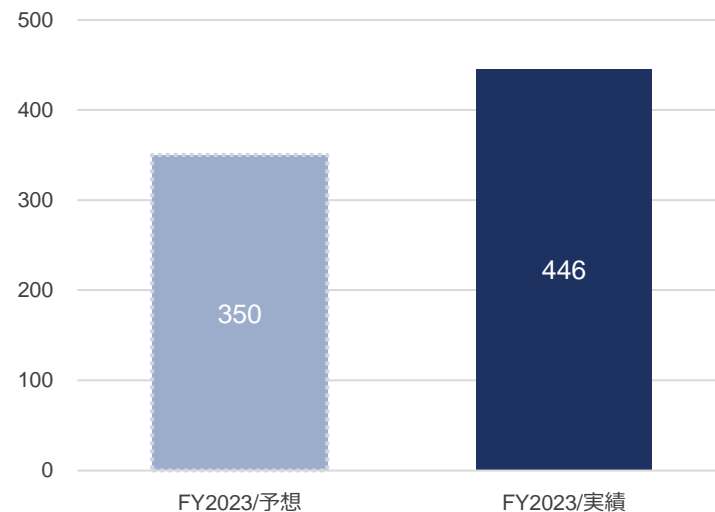
売上高

(単位：百万円)



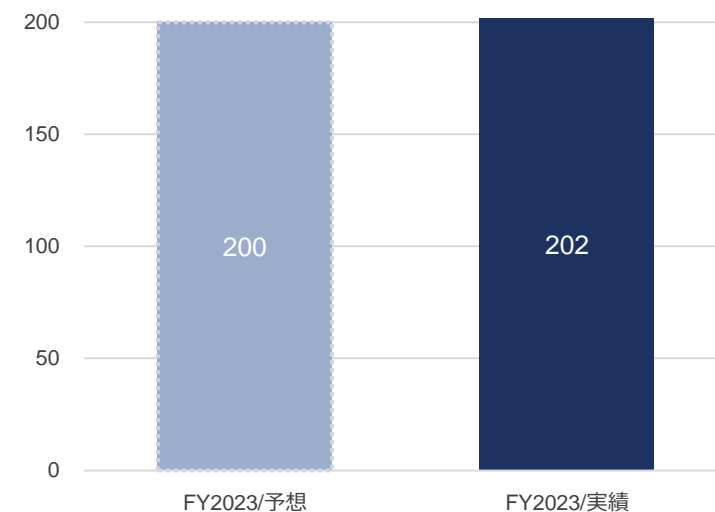
EBITDA

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



\* EBITDA = 税引前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費及び償却費

<b>連 結</b> <small>※ 連結調整後</small>	売上高	4,685百万円 (前年同期比 +2,002百万円)	▶ 売上高、EBITDA、営業利益は業績予想を上回り着地
	EBITDA	446百万円 (前年同期比 +198百万円)	▶ 営業利益には、M&A諸費用が影響
	営業利益	202百万円 (前年同期比 +122百万円)	▶ 親会社株主に帰属する当期純利益は、有価証券評価損が影響
	純利益	37百万円 (前年同期比 ▲90百万円)	
<b>1 デジタルリスク事業</b>	売上高	2,374百万円 (前年同期比 +450百万円)	▶ IPO検討企業などで大型ソーシャルリスク対策を複数受注
	営業利益	883百万円 (前年同期比 +165百万円)	▶ 営業秘密持ち出し事件を受けて、リードを増加
<b>2 AIセキュリティ事業</b>	売上高	1,334百万円 (前年同期比 +611百万円)	▶ M&Aの効果や警備事業の営業体制整備が貢献
	営業利益	▲34百万円 (前年同期比 +17百万円)	▶ 警備DXサービスへの先行投資を継続
<b>3 DX推進事業</b>	売上高	1,037百万円 (前年同期比 +999百万円)	▶ 2自治体でスーパーアプリ提供
	営業利益	▲84百万円 (前年同期比 ▲19百万円)	▶ 6自治体と包括連携協定を締結 ▶ M&Aやプロダクト開発への先行投資を継続
<b>全 社</b>	<b>全社調整</b>	<b>▲561百万円</b> (前年同期比 ▲41百万円)	▶ 経理人材の強化などグループの管理体制を強化

OVERVIEW

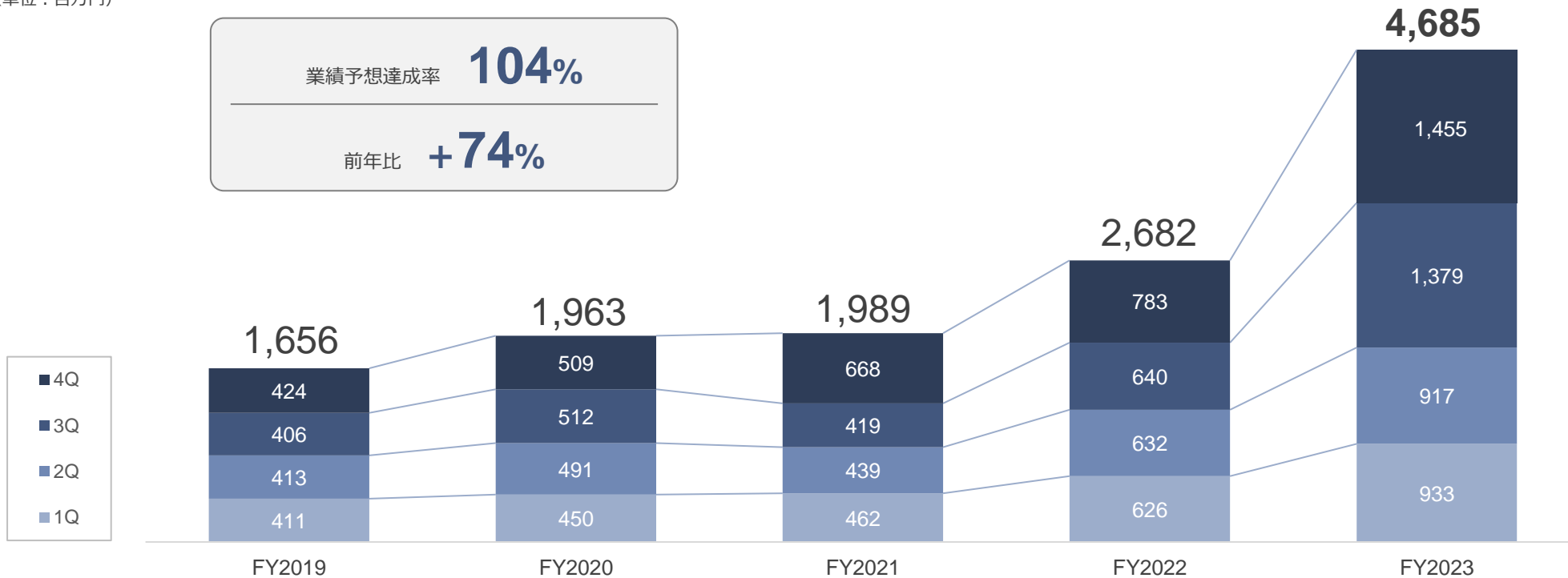
売上高の推移

# 既存事業の伸長と5社M&A

(単位：百万円)

業績予想達成率 **104%**

前年比 **+74%**

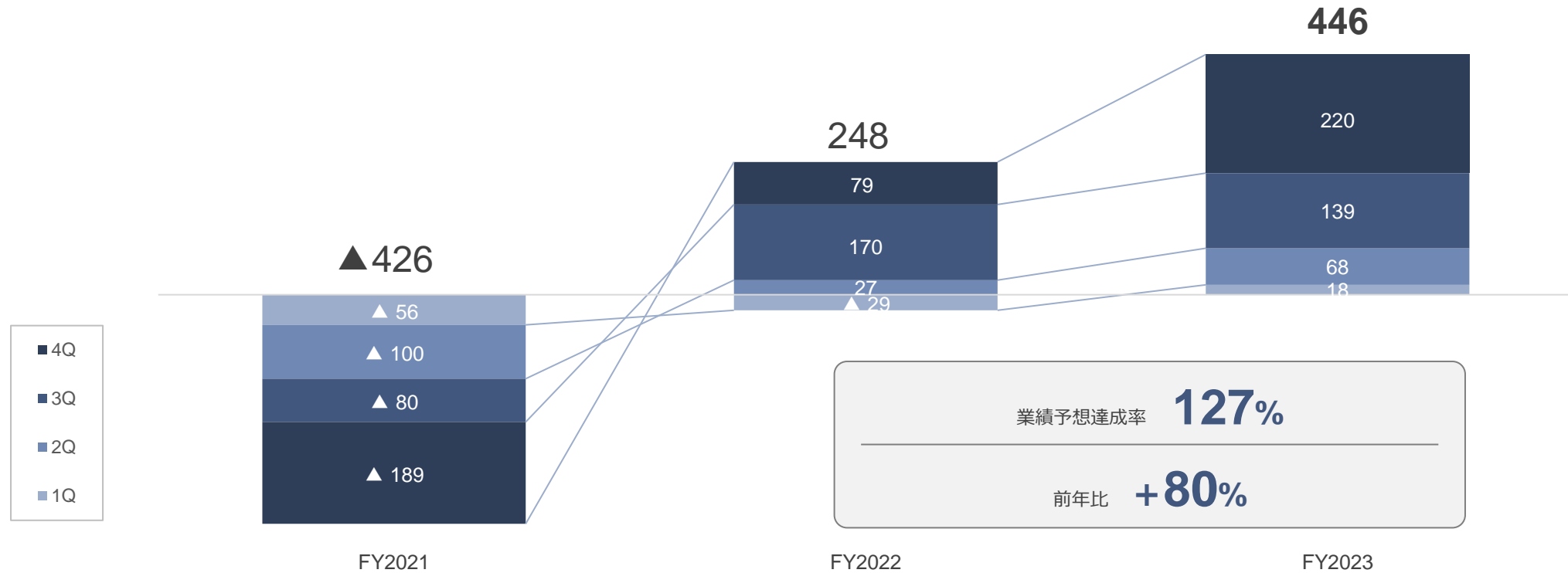


OVERVIEW

EBITDAの推移

# M&A・システム投資を注力しつつ利益確保

(単位：百万円)



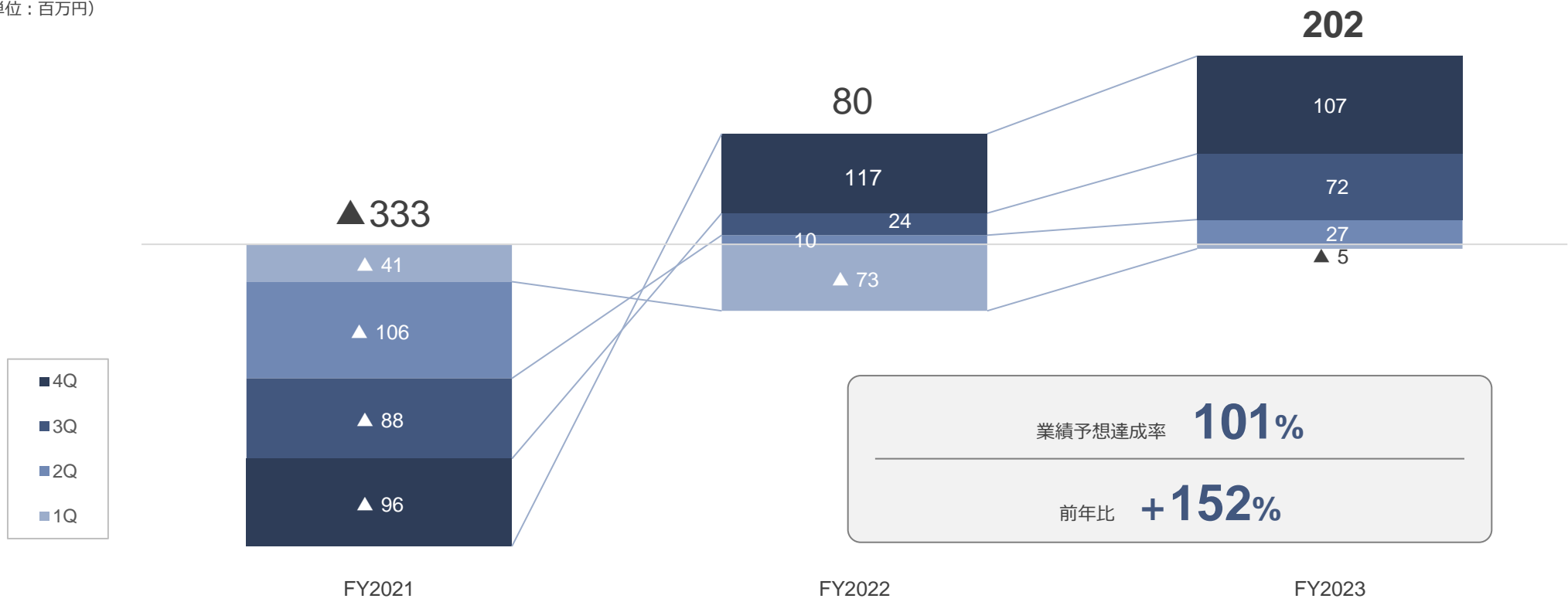


OVERVIEW

営業利益の推移

# 体制強化&コストダウンにより利益確保

(単位：百万円)



OVERVIEW

損益計算書

- ▶ 既存事業伸長、M&Aにより、売上高、営業利益、EBITDAは大幅成長
- ▶ M&Aに関する支払手数料等の一時的な費用が経常利益、純利益に影響

(単位：百万円)	2022年2月期 通期実績	2023年2月期 通期実績	前期比	増減率
売上高	2,682	4,685	2,002	+74%
売上総利益	1,383	1,938	554	+40%
販売管理費及び 一般管理費	1,302	1,735	432	+33%
EBITDA	248	446	198	+80%
営業利益	80	202	122	+152%
経常利益	94	143	49	+52%
親会社株主に 帰属する当期純利益	127	37	▲90	▲70%

OVERVIEW

貸借対照表

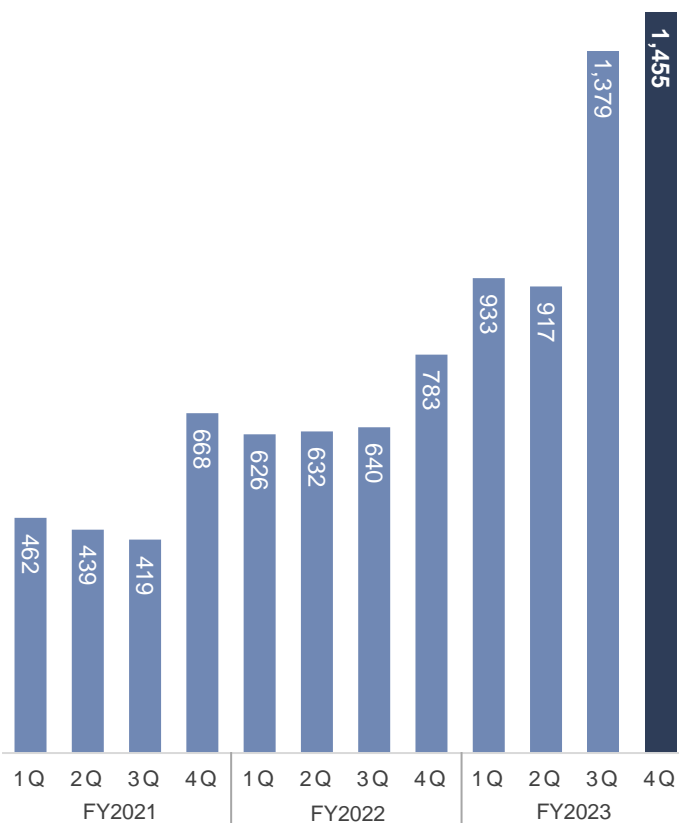
- ▶ 借入により、流動資産（主に現預金）及び固定負債、流動負債が増加
- ▶ 増資により、現金及び純資産が増加

(単位：百万円)	2022年2月期 期末	2023年2月期 期末	増減
流動資産	1,783	2,670	887
固定資産	687	3,486	2,799
<b>資産合計</b>	<b>2,470</b>	<b>6,157</b>	<b>3,686</b>
流動負債	432	1,501	1,069
固定負債	638	2,326	1,687
純資産	1,400	2,330	930
<b>負債純資産合計</b>	<b>2,470</b>	<b>6,157</b>	<b>3,686</b>

### 3指標ともに計画通りに成長

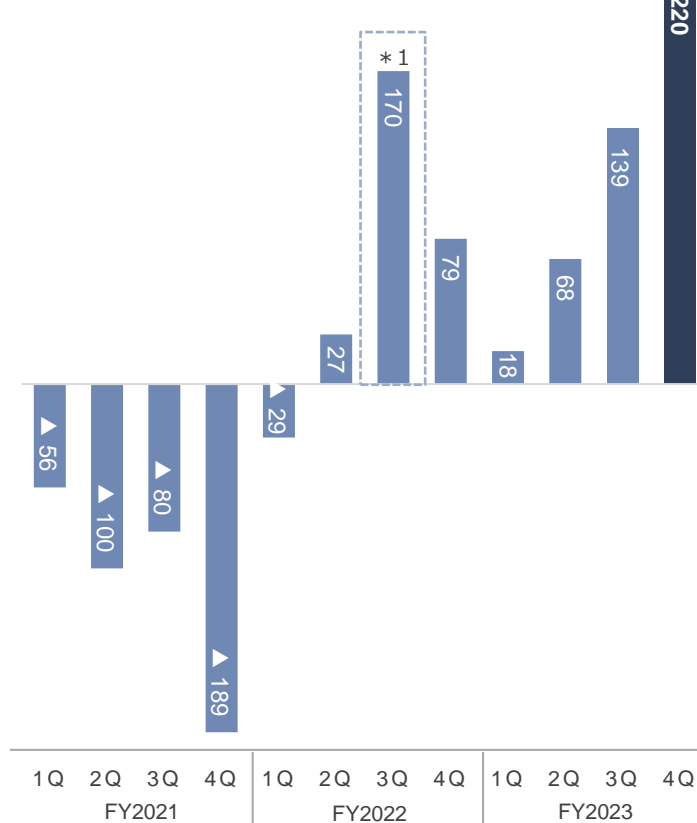
3カ年推移 | 売上高

(単位: 百万円)



3カ年推移 | EBITDA

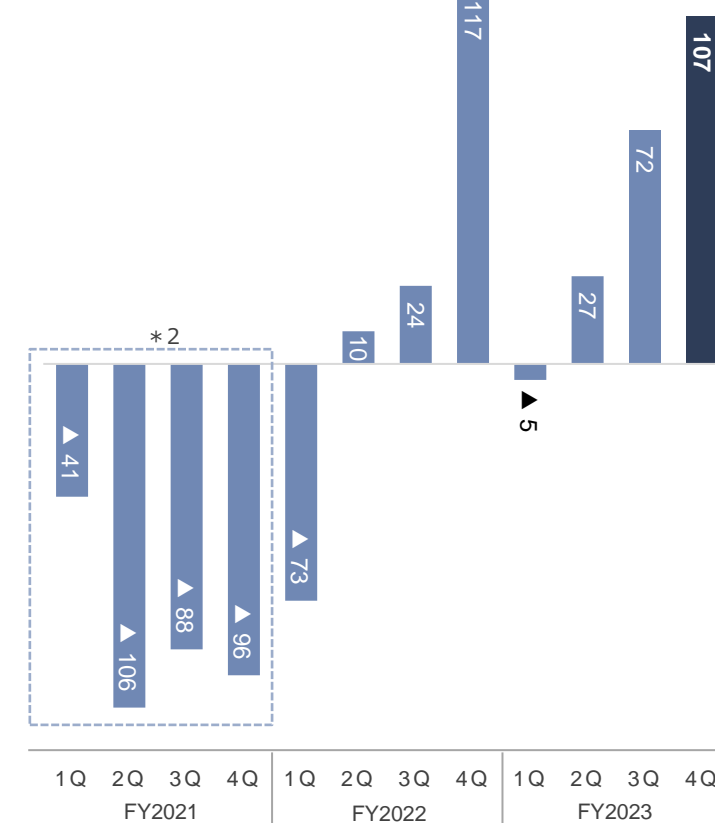
(単位: 百万円)



\* 1 : FY2022・3Qは、投資有価証券売却益111百万円を特別利益で計上

3カ年推移 | 営業利益

(単位: 百万円)



\* 2 : FY2021は、新規事業立ち上げのために投資を強化

# 2

## 2024年2月期通期業績見通し

～ 三毛作、収穫の時期へ ～



## 事業拡大による売上伸長と企業価値向上に注力、 利益体質転換強化で純利益の大幅増へ

(単位：百万円)	2023年2月期 実績	2024年2月期 業績予想	前期比	ポイント
売上高	4,685	6,000	<b>+28%</b>	▶ 既存事業の営業・マーケティングの強化
EBITDA	446	600	<b>+34%</b>	▶ 稼ぐ力の指標として、最重要指標として設定
営業利益	202	300	<b>+48%</b>	▶ 人材投資を強化しながらも、利益確保
純利益	37	150	<b>+297%</b>	▶ 支払利息等の影響を織り込んだ業績管理徹底

## 全 社

中期経営計画 第2期以降（2025年2月期～2030年2月期）に向け、  
グループ管理体制の強化と優秀な人材確保および育成の投資強化

### デジタルリスク事業



- ◆ エンタープライズ向けの営業強化
- ◆ 提供サービス内製化による利益率向上

### AIセキュリティ事業



- ◆ 警備DXサービスの顧客サクセス強化
- ◆ 警備サービスの採用強化で警備ニーズの高まりに対応

### DX推進事業



- ◆ デジタル田園都市国家構想を背景に、自治体DX加速
- ◆ M&A先のPMI<sup>\*</sup>強化

\* PMI：（Post Merger Integration／ポスト・マージャー・インテグレーション）M&Aにおける合併企業の事前検証と、新体制の構築を目指した統合プロセス。企業文化の違いを越えたプロジェクトマネジメントにより、シナジー効果を目的とする。

# 3

## 事業概要



会社名	株式会社エルテス（英語表記：Eltes Co., Ltd）
創業	2004年4月28日
資本金	1,217百万円（2023年2月末時点）
所在地	本店 岩手県紫波町紫波中央駅前2-3-12 オガールベース東棟 東京本社 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング6階
従業員数	320名（2023年2月末時点・連結）
上場市場	東京証券取引所グロース（証券コード 3967）

役員	代表取締役	菅原 貴弘	取締役	三川 剛		
	取締役	松林 篤樹	取締役	佐藤 哲朗		
	取締役	伊藤 真道	社外取締役	伊藤 潤一		
	取締役	道祖 修二	監査役	本橋 広行	監査役	高橋 宜治
	監査役	宮崎 園子				

連結子会社	株式会社エフイーアイ	アクター株式会社
	株式会社AIK	株式会社And Security
	ISA株式会社	SSS株式会社
	株式会社JAPANDX	株式会社GloLing
	株式会社メタウン	株式会社エルテスカピタル

取得認証	JIS Q 27001:2014 (ISO/IEC 27001:2013) No. C2022-02171-R1 JIP-ISMS517-1.0 (ISO/IEC 27017:2015) No. PJRJ2022-037
------	---

## 事業内容

リスク検知に特化したビッグデータ解析によるソリューションの提供

### デジタルリスク事業

- リスクモニタリング：24時間365日体制でモニタリングし、リスクを早期検知
- リスクコンサルティング：Webレピュテーションコンサルティング
- 内部脅威検知：企業のPCログ等の解析によって、情報漏洩や労務リスクを検知

### AIセキュリティ事業

- 警備事業とデータインテリジェンスを用いた警備のDX化

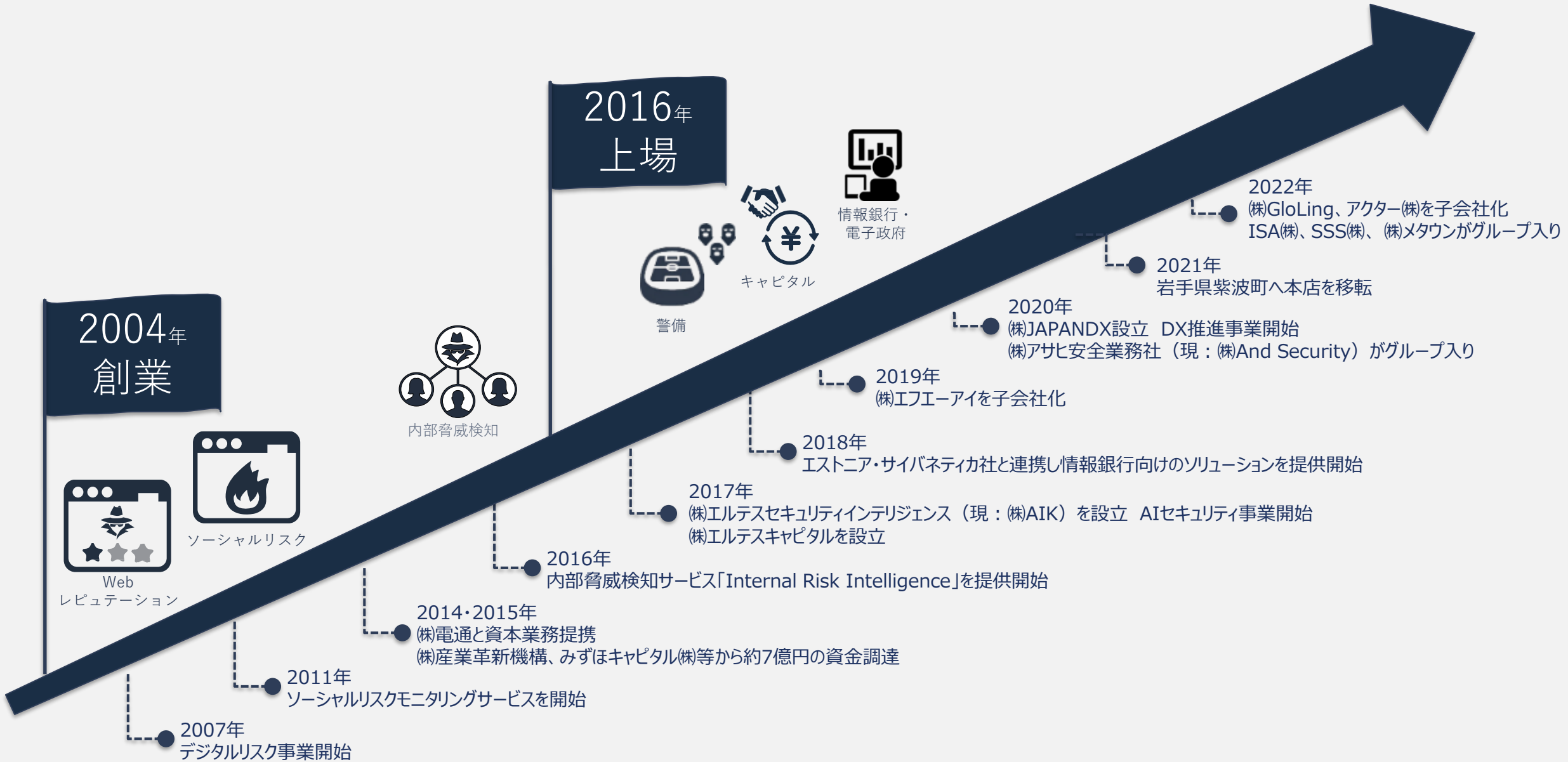
### DX推進事業

- エストニアのCYBERNETICA社と連携したデータ連携プラットフォーム構築
- デジタル田園都市国家構想にも沿った、スマートシティやスマートホームの構築支援
- 不動産プロパティ・マネジメントサービスの提供

## オフィス環境







# デジタルリスクと戦い続ける

健全なデジタル社会の実現へ向けて。

3つの事業セグメントを伸長させてきたエルテスが、次なる構想へ。

1

## デジタルリスク事業

全方位からのデジタル社会の安全を実現



ソーシャルリスク／内部不正リスク／  
業界特化リスク監視（金融・医療等）／  
風評被害対策／外部リスク（サイバーセキュリティ）／  
デジタルマーケティング

2

## AIセキュリティ事業

警備事業の全国展開とともに  
リアル社会の安全と、警備DXを実現



警備DXサービス（AIKシリーズ）／  
警備事業（関東・北海道・関西）

3

## DX推進事業

オンライン（デジタル）社会の実現・改善と、  
オフライン（リアル）社会の実現



自治体DX推進／IoT活用による減災／  
エンジニア派遣／地域活性化／人材育成／  
メタシティ／Web3.0／人材派遣／  
プロパティ・マネジメント

社会のデジタル化に合わせ、3つの事業による強烈なシナジーを目指す

## 社会構造の変化

デジタルリスクの内容の多様化による様々なニーズへの対応が必要  
(デジタルリスクと内部脅威双方への対応、  
経済安全保障への対応)

1

**デジタルリスク事業**

警備業界の抱える本質的課題、  
人材不足とDX化の相対的な  
遅れへの広域的な対応の必要性

2

**AIセキュリティ事業**

地方自治体におけるDX化が  
急速に進行する  
(デジタル田園都市国家構想等)

3

**DX推進事業**



第1期（2022.2月期～2024. 2月期）

## 「デジタルリスクの企業」から、その先へ。

- 中期経営計画「The Road To 2024」を策定、「変革と基盤構築」をビジョンに掲げて新領域へ挑戦
- 3つの事業セグメントの設置により役割を明確化、それぞれが堅実な売上と健全な収益を確保
- 事業体制の拡充によりアライアンスとM&Aを速やかに実施、事業領域の拡張と体制の強化を実現
- 組織運営の改善で2つの本部を新設、拡大する組織の経営効率改善とグループ全体の利益体質を構築

第2期以降（2025.2月期～2030. 2月期）

## 健全なデジタル社会の実現に向けて。

- 第1期で構築した収益基盤で、さらなる加速度的成長サイクルを実現
- デジタル田園都市国家構想にも沿った、スマートシティやスマートホームの構築支援を実施
- メタバース上にデジタルツイン\*を構築、次世代警備の実証実験を開始

\* 現実の世界にある物理的な「モノ」から収集した様々なデータを、デジタル空間上にコピーし再現する技術

## 「既存事業の営業利益率向上」と「参画企業へのPMI推進による売上高の引き上げ」に注力

第1期  
(2022.2月期～2024. 2月期)

### 「変革と基盤構築」

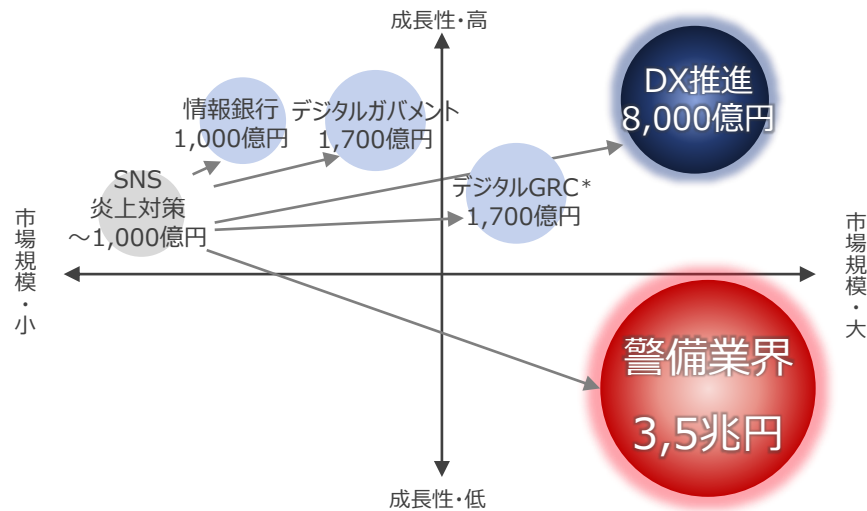
- ▶ 「デジタルリスク事業」において、新プロダクトの開発とアライアンスの強化およびM&Aの実施により、圧倒的なナンバーワン企業となる
- ▶ 既存の収益基盤に依存せず、新たな領域にも積極的に進出し、業界での確固たるポジションを築く
- ▶ 事業拡大により、縮小均衡ではなく、非連続的なトップライン=売上高の伸長と企業価値向上を目指す

「既存事業の営業利益率向上」及び  
「PMI推進による売上高伸長」に注力

第2期  
(2025. 2月期～2027. 2月期)

### 「加速度的な成長サイクルの実現」

- ▶ 第1期で構築した収益基盤を一気に成長させるフェーズである
- ▶ 今後の急拡大がみこまれるDX推進領域、規模が大きな警備業界に於いて、新風を巻き起こすようなシェア拡大を実現する



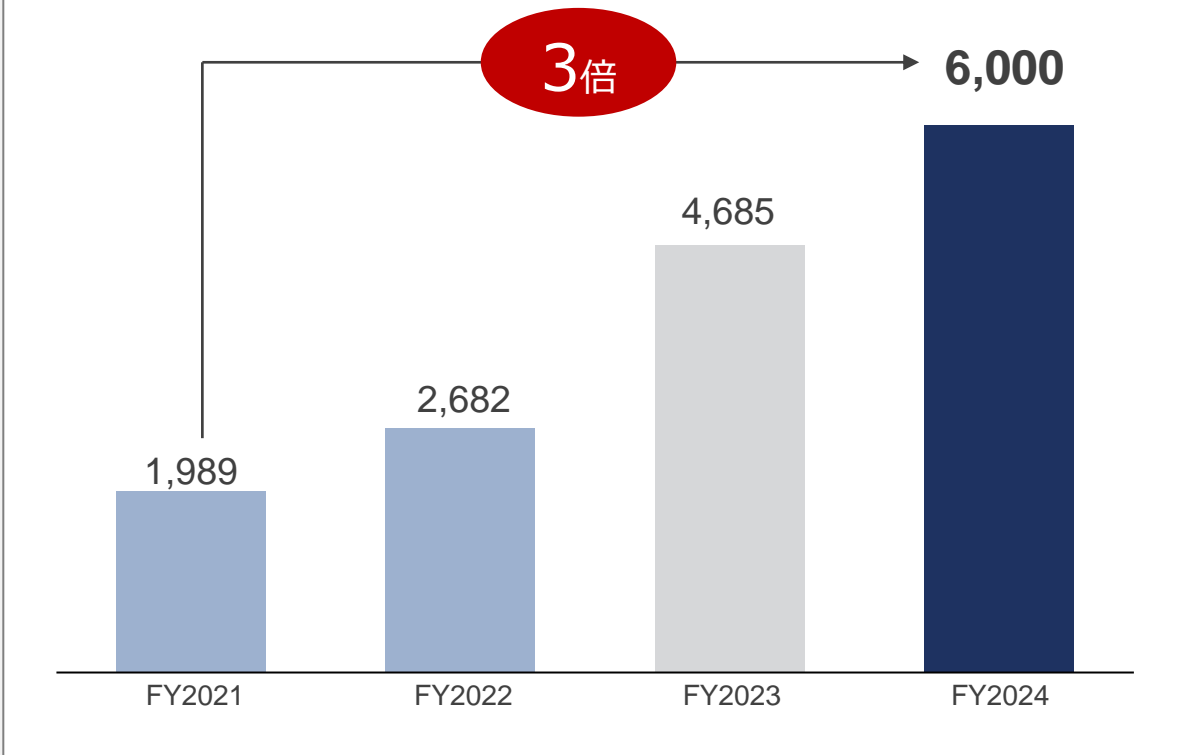
\* GRC (ガバナンス・リスク・コンプライアンス)

更なる飛躍を目指す  
健全なデジタル社会の実現に向けて  
エルテスグループは

- ▶ 1期（2022年2月期～2024年度2月期）においては、売上高とEBITDAを最重要財務目標数字とする
- ▶ 2024年度2月期では、売上高60億円、EBITDA6億円を目標とする

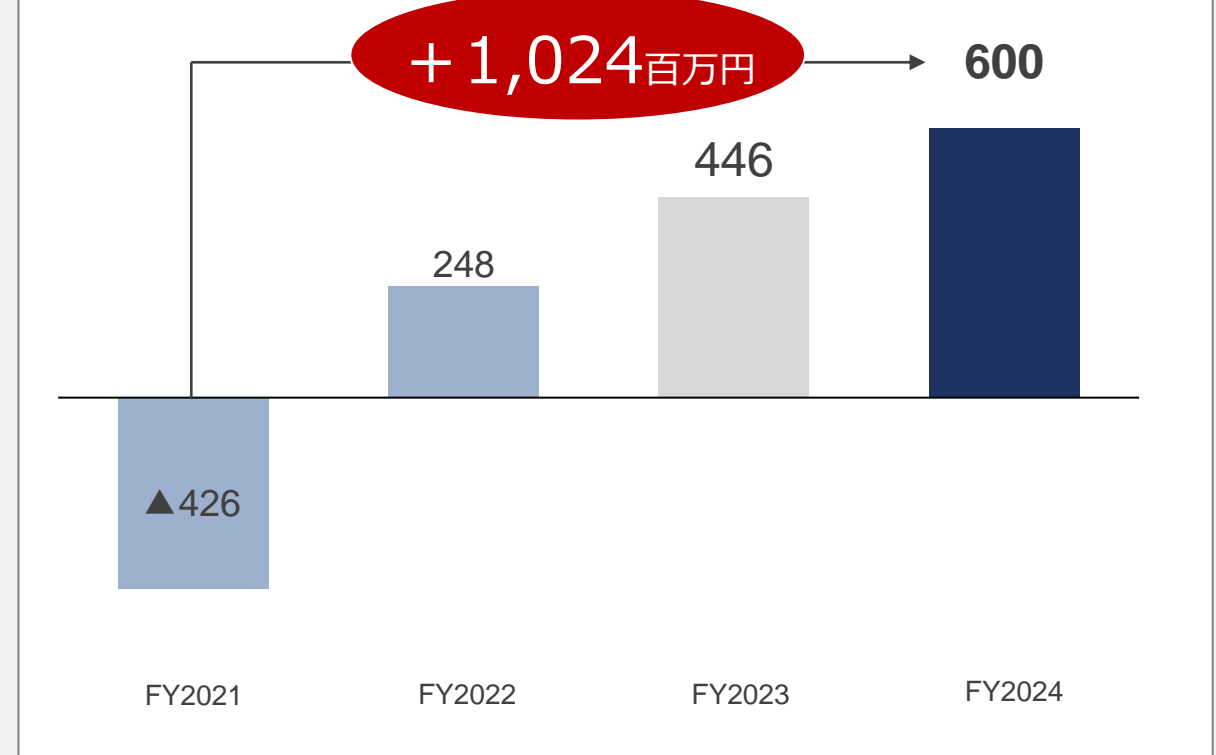
売上高推移

(単位：百万円)



EBITDA

(単位：百万円)



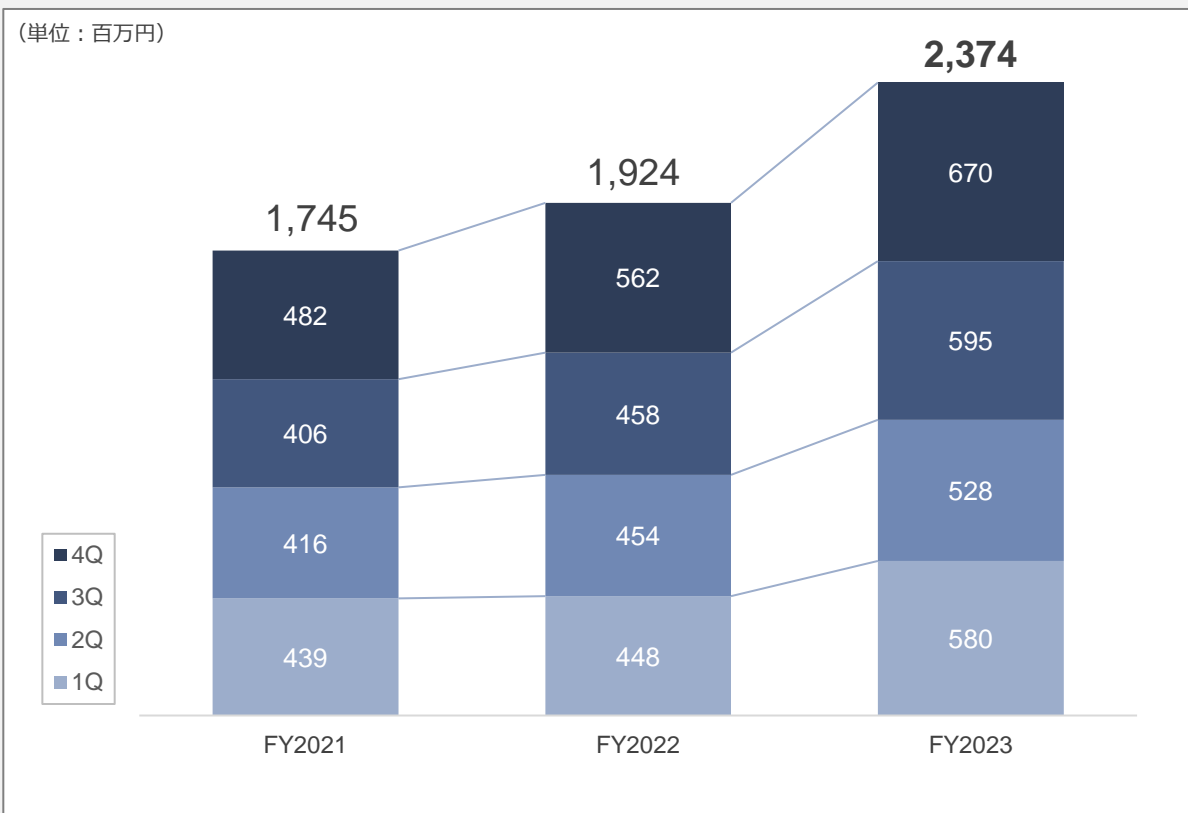
# 4

## 事業別状況（セグメント別）

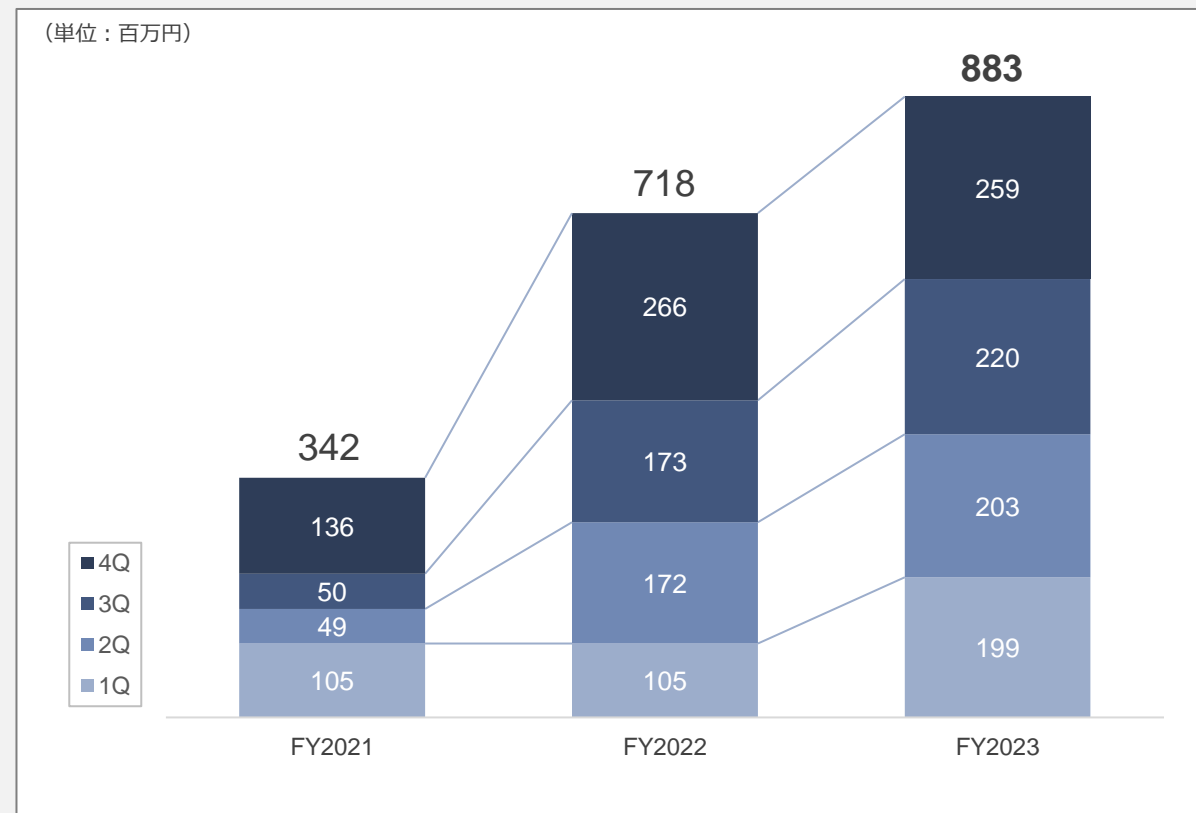


- ▶ 前年同期比で売上高は+23.4%成長、営業利益は+23.0%と大幅成長
- ▶ IPO検討企業、製薬企業などへのソーシャルリスク対策提供に加えて、生産性向上の取り組みによって、営業利益率が向上

売上高の推移



営業利益の推移



\* 組織再編に伴い第2四半期より、一部子会社のセグメントを変更しております。その為、当第1四半期の売上高、営業利益を遡って修正し、記載しております。



## TOPIC 1

### ● ソーシャルリスク対策サービスの受注単価の向上

2023年2月期上期より強化しているターゲットセールスチームの取組みが奏功し、大型案件の獲得、受注単価の大幅増加に繋がる。

## TOPIC 2

### ● サービスの用途開発が受注に貢献

ソーシャルリスク商材の用途開発によって、IPO検討企業のレピュテーション対策、景品表示法厳格化によるリスクモニタリング支援などの受注が増加。

## TOPIC 3

### ● 内部脅威検知サービス（IRI）のパートナーセールス体制が機能

営業秘密などの情報持ち出しを早期検知するIRIサービスについて、パートナーシップ制度を通じた案件の創出、受注が加速。

## ACTION

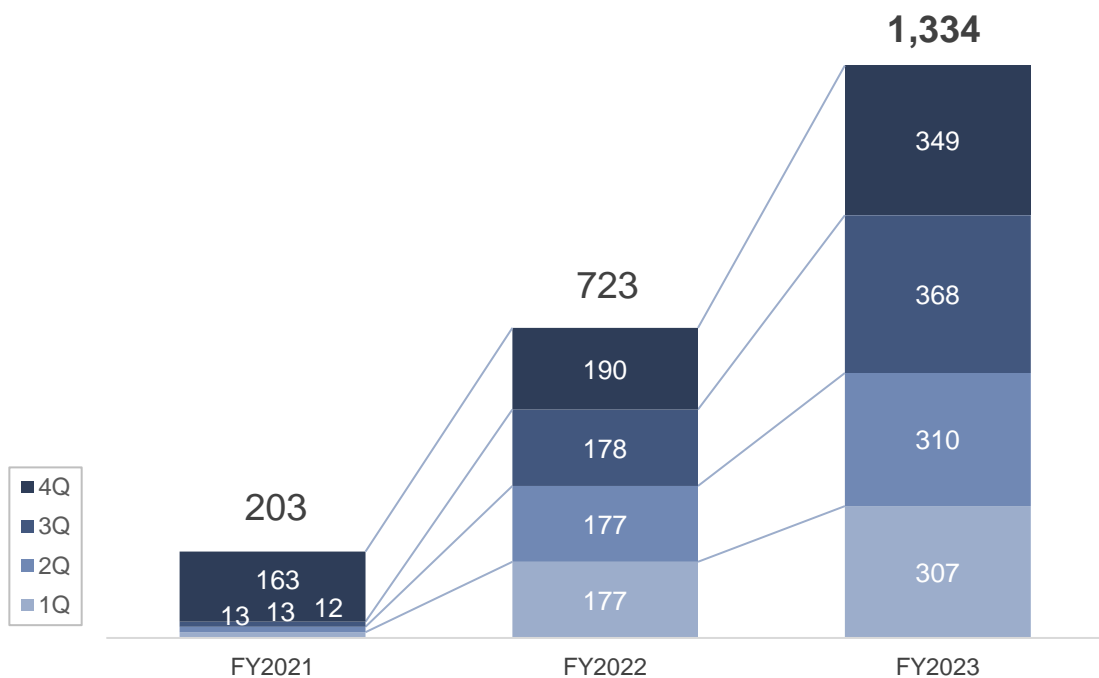
- ✓ ハラスメントや不正取引を検知する自然言語処理技術を用いたAIテキスト分析サービスの展開
- ✓ 頻発するバイトテロ・顧客テロのリスク対策需要を取り込む

\* 上記の取組みについては、詳細が決定次第、プレスリリース等にてご報告いたします。

- ▶ 警備サービスの大幅な売上高増加
- ▶ AIK社先行投資、のれん償却が営業利益に影響を与えるも、前期と比較して改善

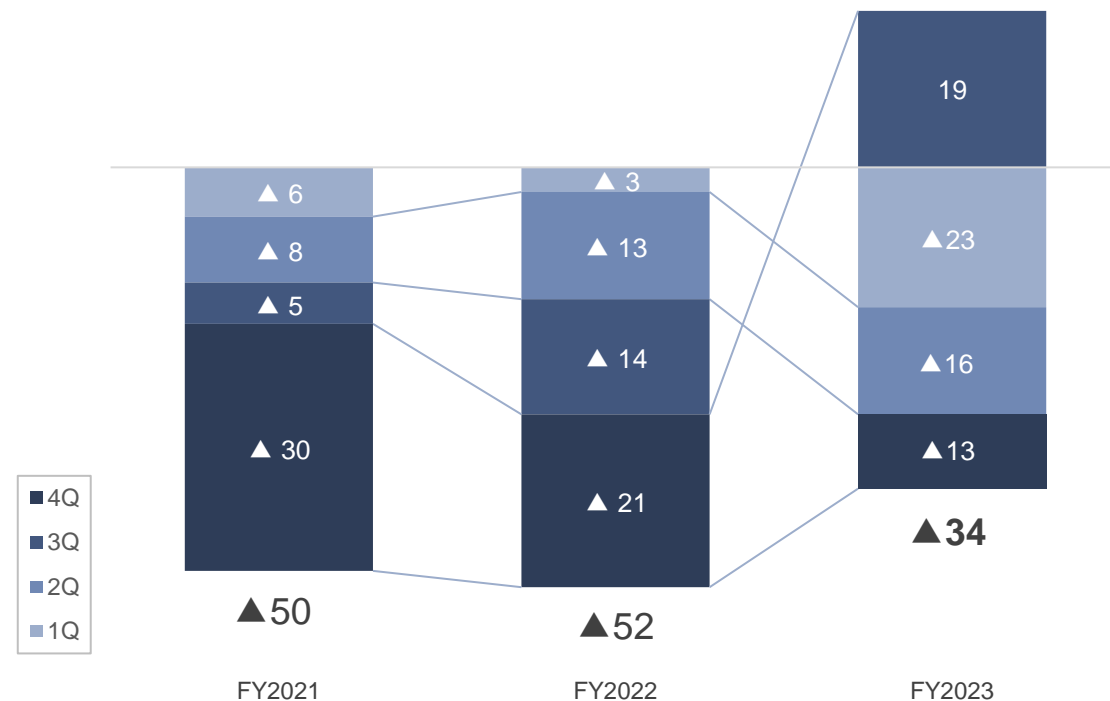
売上高の推移

(単位：百万円)



営業利益の推移

(単位：百万円)



TOPIC 1

● 「AIK order」の登録警備会社の対応範囲が全国47都道府県を網羅

警備会社に直接訪問するキャラバン活動の推進によって、警備会社からの登録が増加。

全国47都道府県それぞれで対応可能な警備会社の登録を実現し、サービス提供価値強化。

TOPIC 2

● 警備サービスの新規取引先数の増大

PMIによる新規営業体制強化が奏功し、新規取引先を開拓。

売上ポートフォリオの強化で基盤構築。

TOPIC 3

● 警備サービスの人員を強化し、提供能力を増強

And Security社、ISA社、SSS社において、警備員の採用が順調に推移し、

今後警備サービスの売上高増加に貢献の見込み。

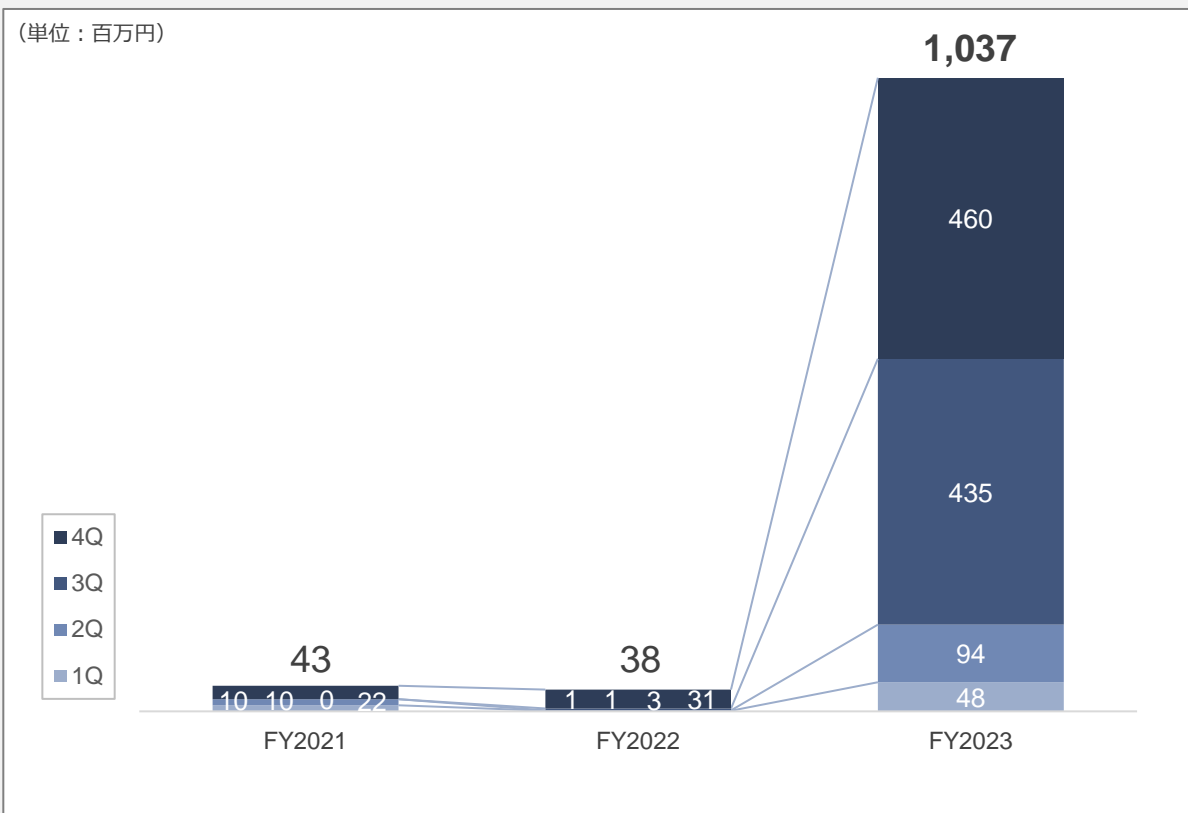
ACTION

- ✓ 「AIK order」の顧客サクセス体制強化でアクティブユーザー増加を実現
- ✓ 「AIK order」の仕組みを異業種へ横展開
- ✓ 警備サービスの売上高拡大に向けた、再現性のある強力な営業体制の推進

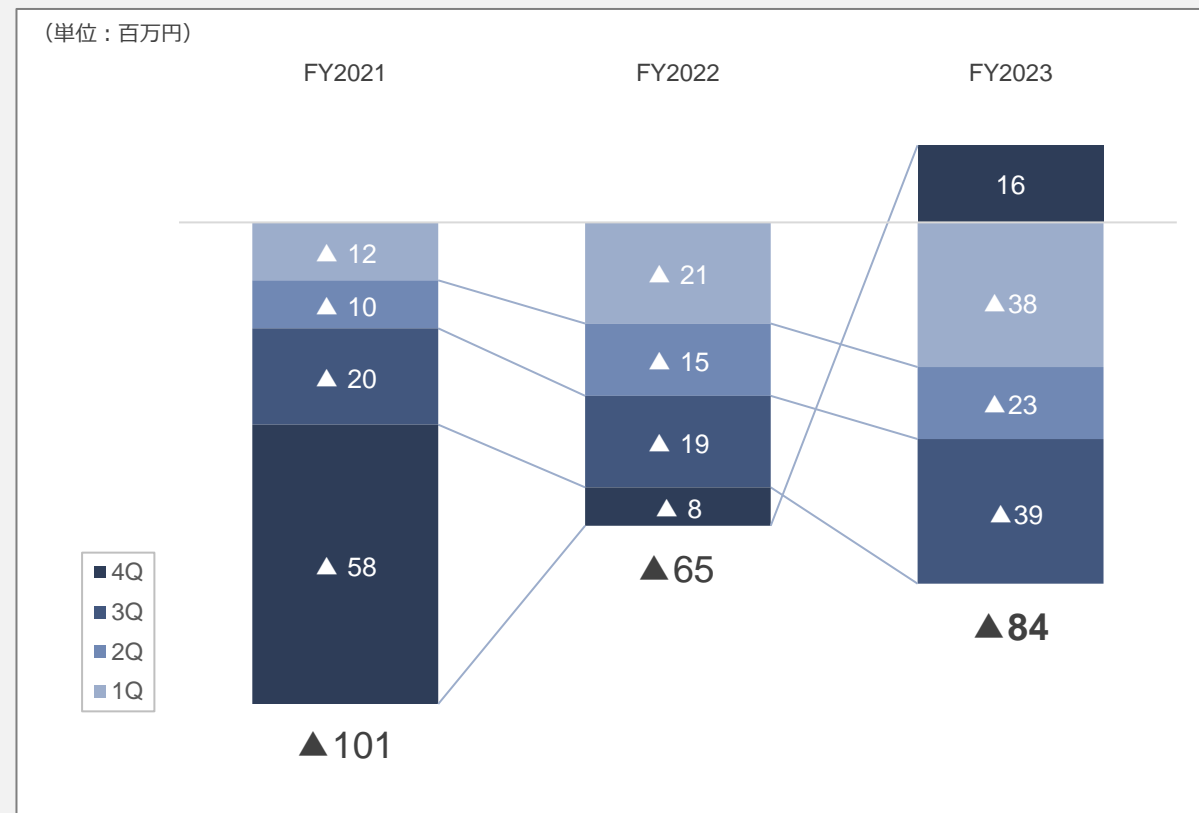
\* 上記の取り組みについては、詳細が決定次第、プレスリリース等にてご報告いたします。

- ▶ 第4四半期は、セグメント別で黒字化達成
- ▶ M&A諸費用と、自治体DXサービスへの先行投資が営業利益に影響を与えるも、前期と比較して改善

売上高の推移



営業利益の推移



\* 組織再編に伴い第2四半期より、一部子会社のセグメントを変更しております。その為、当第1四半期の売上高、営業利益を遡って修正し、記載しております。

TOPIC 1

● 第4四半期は、セグメント別で黒字化

JAPANDX社などの貢献によって、黒字化を達成。  
グループ内のシナジーと各事業の拡大を推進。

TOPIC 2

● スーパーアプリの横展開が加速

行政の住民サービスのデジタル化を実現する住民総合ポータル「スーパーアプリ」が2自治体でリリース。  
包括連携協定も6自治体へ。実証から実装フェーズに移行。

TOPIC 3

● 連結化した子会社のPMI推進

PMI推進の結果、売上高、営業利益が伸長。  
デジタル化への取組みを加速。

ACTION

- ✓ マイナンバーとの連携を目的としたスーパーアプリのさらなる機能拡充
- ✓ グループ内のシナジー創出に向けたPMIの強化

\* 上記の取組みについては、詳細が決定次第、プレスリリース等にてご報告いたします。

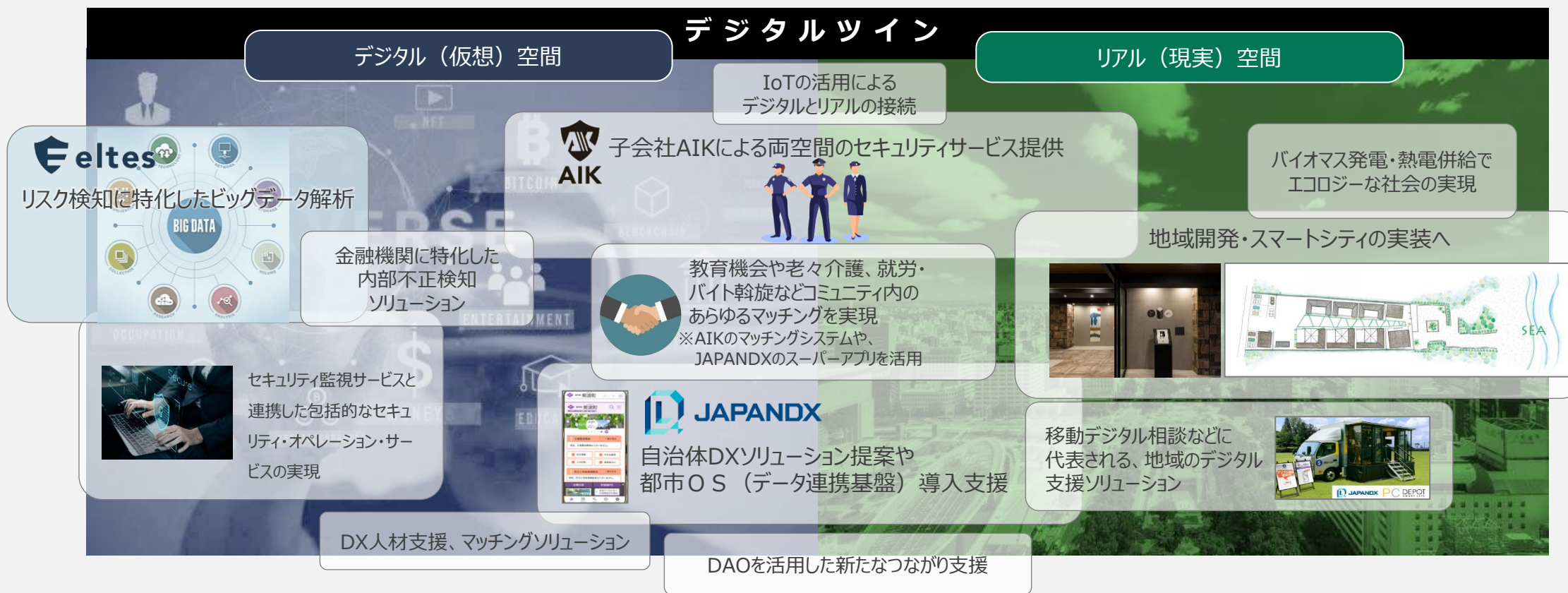
# 5

## APPENDIX



## エルテスが構想するメタバース×スマートシティについて

メタバース(仮想世界)上に構築したデジタルツインによって、デジタルとリアルを融合した次世代のAIセキュリティを実現。また地域の安全を確保した上で、住民が豊かに暮らすための「コミュニケーション」「エネルギー」「エコロジー」といった領域へ拡充。地域全体をネットワーク接続し、AI予測を活用するスマートシティへと昇華させる。





## PHASE 1

### AIセキュリティを実証実験するためのメタバースを構築

コンピュータやコンピュータネットワークの中に構築された、現実世界とは異なる仮想空間「メタバース」を構築し、現実社会では難しい、様々なリスクに関するシミュレーションを実装。AIセキュリティを検証できる環境を整備する。

AIセキュリティ事業

デジタルリスク事業

DX推進事業

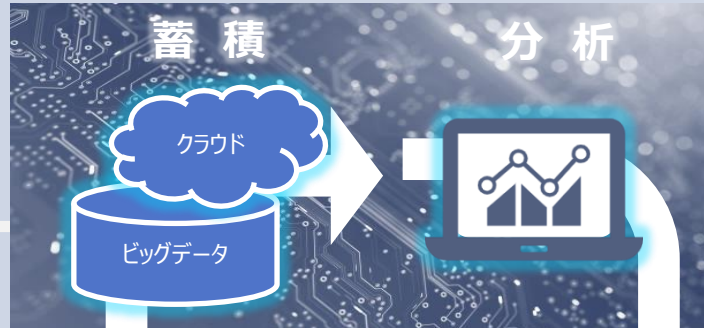


## PHASE 2

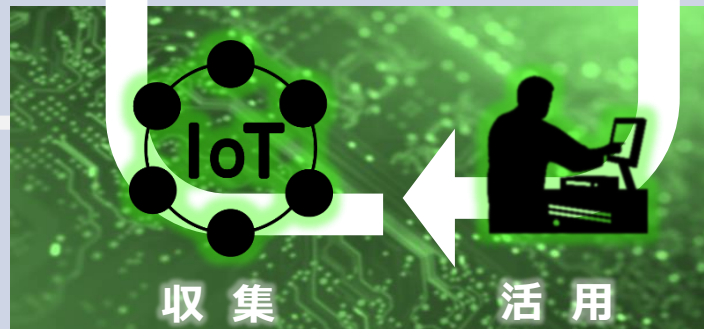
### デジタルツインによって、デジタルとリアルを融合させ、実証実験を行う

リアル空間にある情報を、IoTなどで収集されたデータを元にデジタル空間へフィードバックするデジタルツインによって、メタバースとリアル空間を結合。デジタル/リアル空間のリスクをシームレスに対策する世界初のモデルを創出する。

デジタル



リアル



## PHASE 3

### 健全なデジタル社会の嚆矢となるスマートシティの実装へ

デジタルツインを進化させ、リスクだけではなく、住民が豊かに暮らすための「コミュニケーション」「エネルギー」「エコロジー」といった領域でも活用。地域全体をネットワーク接続し、AI予測の活用によってスマートシティへと昇華させる。





## エルテスグループ成長のための取り組み「エルテスの道」

「デジタルリスクの企業」という印象から、新たな事業領域に挑戦するエルテスを深く理解していただくために、「エルテスの道」では社長の菅原をはじめ社員、お客様、またともにサービスや商品開発のご支援をいただく企業様との、インタビューや記事を掲載。



### プロスポーツ界屈指のデジタルマーケティング巧者と、エルテスが目指す「攻め」と「守り」の新戦略

プロバスケットボールリーグ「B.LEAGUE」所属する川崎ブレイブサンダースの、SNS戦略とデジタルリスクの取り組みを紹介

<https://eltes.co.jp/ownedmedia/articles/20230301/>



# 免責事項



- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。

---

【お問合せ先】株式会社エルテス IR担当E-mail: [ir@eltes.co.jp](mailto:ir@eltes.co.jp)